

授業科目	*成人慢性期看護方法論				実務家教員担当科目	○					
単位	2	履修	必修	開講年次	2	開講時期	後期				
担当教員	原 頼子、中原 智美										
授業概要	<p>以下の内容について総合病院での実務経験のある教員が実践と照らし合わせながら授業をすすめる。</p> <p>1. 慢性疾患(生活習慣病や慢性的経過をたどる疾患)を持ちながら生活している成人とその家族の特性を身体的・心理的・社会的側面から解説する。</p> <p>2. 慢性疾患を持つ成人とその家族に顕在するあるいは潜在する看護問題とそれが生活に及ぼす影響を解説する。</p> <p>3. 慢性疾患を持つ成人とその家族がQOLの向上を目指して健康状態を管理できるように、疾病との共存過程を、関連する人々と支援するとともにセルフケア能力を高める援助方法について、理論と実際を踏まえ具体的に解説する。</p>										
授業形態	パワーポイント資料とテキストを用いた 講義		授業方 法								
学生が達成すべき行動目標											
標準的 レベル	<p>1. 慢性疾患を持つ成人とその家族の特徴・発達課題を述べることができる。(DP1-2)</p> <p>2. 慢性疾患が対象の成長・発達課題や日常生活に与える影響を述べることができる。(DP1-2)</p> <p>3. 慢性疾患をもつ成人の健康障害に対する看護活動を述べることができる。(DP2-1)</p> <p>4. 慢性疾患をもつ成人とその家族がQOLの向上を目指して健康状態を管理できるように、関連する人々と連携し、セルフケア能力を高める援助のあり方について述べるができる。(DP2-1)(DP3-2)</p> <p>目標1～4の内容を理解し、内容の概要について説明できる。 事例に関する看護問題およびそれに対する看護援助を70～80%程度列挙できる。</p>										
理想的 レベル	目標1～4の内容を総合的に理解し、内容について正確に説明できる。事例に関する状況を理解し、看護問題およびそれに対する援助方法を適切に(80%以上)列挙できる。										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合(数値)				備考						
試験	50%										
小テスト	50%										
レポート											
発表(口頭、プレゼンテーション)											
レポート外の提出物											
その他											
カリキュラムマップ(該当DP)・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリン グ	NU21317J
学習課題(予習・復習)										1回の学習目安 (時間)	
復習: 本日の授業内容の振り返り										4	
予習: 次回授業内容について配付資料、テキスト、参考資料に目を通しておく											
授業計画											
第1回	テーマ: 成人慢性期看護学のガイダンス										

	<ul style="list-style-type: none"> ・ B23:L29 慢性期・慢性疾患の概念 ・ 慢性疾患をもつ人とその家族の理解 ・ 慢性疾患を持つ人とその家族への看護の特徴 <p>(原)</p>
第2回	<p>テーマ：呼吸機能に障害を持つ人の看護①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 呼吸機能のメカニズムと呼吸機能に障害をもつ人の理解（アセスメント）と援助・支援の基本 ・ 呼吸機能に関連する特有な症状を持つ人のアセスメントと看護（咳・痰） <p>(原)</p>
第3回	<p>テーマ：呼吸機能に障害を持つ人の看護②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 呼吸機能に関連する特有な症状を持つ人のアセスメントと看護（咯血、胸痛、呼吸困難） ・ 代表的な疾患に罹患している人の看護（気管支喘息） <p>(原)</p>
第4回	<p>テーマ：呼吸機能に障害を持つ人の看護③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な疾患に罹患している人の看護（COPD） ・ まとめ <p>(原)</p>
第5回	<p>テーマ：呼吸機能に障害を持つ人の看護② B23:L29</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 呼吸機能に関連する特有な症状を持つ人のアセスメントと看護（咯血、胸痛、呼吸困難） ・ 代表的な疾患に罹患している人の看護+B27 護（気管支喘息） <p>(原)</p>
第6回	<p>テーマ：内分泌・代謝機能に障害を持つ人の看護②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な疾患に罹患している人の看護（甲状腺機能亢進症） <p>(中原)</p>
第7回	<p>テーマ：内分泌・代謝機能に障害を持つ人の看護③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な疾患に罹患している人の看護（糖尿病） <p>(中原)</p>
第8回	<p>テーマ：糖尿病患者の生活指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例のアセスメントと生活指導 ・ まとめ <p>(中原)</p>
第9回	<p>テーマ：消化・吸収機能に障害を持つ人の看護①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消化・吸収機能のメカニズムと消化・吸収機能障害を持つ人の理解(アセスメント)と援助・支援の基本 ・ 消化・吸収機能に関連する特有な症状のアセスメントと看護（悪心・嘔吐、腹部膨満） <p>(原)</p>
第10回	<p>テーマ：消化・吸収機能に障害を持つ人の看護②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消化・吸収機能に関連する特有な症状のアセスメントと看護（吐血・下血） ・ 代表的な疾患に罹患している人の看護（潰瘍性大腸炎） <p>(原)</p>
第11回	<p>テーマ：消化・吸収機能に障害を持つ人の看護③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な疾患に罹患している人の看護（肝硬変）

	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ <p>(原)</p>
第12回	<p>テーマ：腎・排泄機能に障害を持つ人の看護①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腎・排泄機能のメカニズムと機能に障害を持つ人の理解 ・代表的な疾患に罹患している人の看護（慢性腎臓病） ・特有な症状を持つ人のアセスメントと看護（浮腫、尿毒症） <p>(中原)</p>
第13回	<p>テーマ：腎・排泄機能に障害を持つ人の看護②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特有の症状を持つ人のアセスメントと看護（末期慢性腎不全） ・透析療法を受けている患者の看護 ・まとめ <p>(中原)</p>
第14回	<p>テーマ：生体防御機能（免疫）に障害を持つ患者の看護①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体防御機能のメカニズムとアセスメント ・感染性疾患を持つ患者の看護（HIV/AIDS、日和見感染症、敗血症） <p>(中原)</p>
第15回	<p>テーマ：生体防御（免疫）機能に障害を持つ患者の看護②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己免疫疾患を持つ人の看護（膠原病－SLE） ・ステロイド療法を受ける患者の看護 ・まとめ <p>(中原)</p>
テキスト	<p><系統看護学講座>「成人看護学〔2〕呼吸器」、「成人看護学〔4〕血液・造血器」、「成人看護学〔5〕消化器」、「成人看護学〔6〕内分泌・代謝」「成人看護学〔8〕腎・泌尿器」「成人看護学〔11〕アレルギー－膠原病 感染症」（いずれも医学書院 2023）、「糖尿病食事療法のための食品交換表」最新版(日本糖尿病学会・文光堂)</p>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>参考書：病気がみえるシリーズ MEDIC MEDIA, 毎回パワーポイント資料を用いる。</p> <p>データベース：医学中央雑誌, 最新看護索引Web, CINAHL等から興味がある情報を得てみましょう。</p> <p>成人看護学 慢性期看護 南江堂</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>課題達成については成績発表後に、評価点分布を提示します。</p>
学生へのメッセージ・コメント	<p>専門基礎科目（看護形態機能学、疾病学、薬理学、臨床栄養学、感染と免疫、看護に活かす臨床検査学等）、基礎看護学（ヘルスアセスメント、技術、看護過程、倫理等々）の知識を活用して慢性病を持つ患者と家族への援助方法を学ぶ科目です。したがって、各単元毎に関連する既修の部分を十分復習して授業に臨んで下さい。</p>

慢性病を持つ人の看護を学びます。既習の知識や技術を活用して進みますので、今まで学んできたことを再確認しておいて下さい。範囲がとても広いので、日々の復習を確実にしていくことが大切です。各単元で渡す資料には詳細は書いてありません。思考・判断力を養うため授業は質問による確認をします。その中に大切なことが出てきますので、必要に応じてメモを取り、自己学習による理解の深まりを期待します。